

## 政治経済学研究科修士課程のカリキュラム変更について

武蔵野大学大学院政治経済学研究科は、設置当初は法律学科、政治学科、経営学科、経済学科の4学科を母体としていましたが、法学研究科、経営学研究科が分離したため、現在は政治学科、経済学科の2学科から構成されています。

そこで、令和4年度より、修士課程政治経済学専攻のなかに政治学コースと経済学コースを設置し、政治学および経済学のそれぞれについて、設置後の学問的発展を反映させながら、修士課程レベルのより専門的な教育を行うことを目的とするカリキュラムへと変更することにしました。政治学と経済学の双方において、理論的・計量的手法の用いた実証分析が近年大きく進展しており、そうした発展分野の基礎および応用を体系的に教える必要がありますが、他方で、思想的・歴史的手法も依然として有効なアプローチであり、カリキュラムのなかにしっかりと位置づけることが望まれます。新設科目は、理論的・計量的手法と思想的・歴史的手法のバランスを考慮するものですが、さらに「政治及び経済の現状分析と理念の構築、政治及び経済の新たな制度設計・政策提示並びに制度及び政策の実現という3つの課題に積極的に取り組むために必要な能力とシティズンシップ・マインドを併せ備え、現場での問題解決を行える人材の養成を目的とする」という研究科設置時の理念は継承したいと考えており、必修科目をできるだけ減らして、政治学と経済学の幅広い科目を自由に履修できるように配慮されています。

### \* 基本的な科目構成

- ・必修科目：政治経済学総論、事例研究、修士論文演習（各4単位）
- ・選択科目：（各2単位）

政治学科目群：現代政治学特論、現代政治理論特論、政治思想史特論、日本政治特論、国際政治学特論、地域研究特論、政治史特論、計量政治学特論、現代行政学特論、憲法特論、公共政策特論、比較政治学特論、外交政策特論

経済学科目群：ミクロ経済学特論、マクロ経済学特論、計量経済学特論、応用計量経済学特論、ゲーム理論特論、国際経済学特論、公共経済学特論、経済政策特論、財政学特論、金融経済特論、経済史特論、経済思想史特論

### \* 履修条件

政治学コースは、必修科目12単位、選択科目18単位以上（うち政治学科目群12単位以上）を、経済学コースは、必修科目12単位、選択科目18単位以上（うち経済学科目群12単位以上）を履修のうえ修士論文を提出します。

多くの方が武蔵野大学大学院政治経済学研究科修士課程への入学に関心をもって下さることを期待します。

武蔵野大学大学院政治経済学研究科長  
馬場 哲